



源泉かけ流しの露天風呂

道経連会報 No.258 CONTENTS

巻頭言	1
「平成30年北海道胆振東部地震」 に関する緊急要望活動	2
義援金贈呈	3
特集「北海道・北東北の縄文遺 跡群」世界文化遺産の登録をめ ざして	4
常任理事会レポート	11
経済施策説明	12
委員会等の動き	23
働き方改革を推進する企業	24
会員企業紹介	27
会員の異動	31
新会員企業紹介	32
グループ活動報告	33
北海道の経済動向	40
人事・労務相談日	42
事務局人事	43
道経連カレンダー	43
Face to Face	44
わがまち紹介（シリーズ28）	45



北海道経済連合会 常任理事

生方 誠司

サッポロビール株式会社
上席執行役員 北海道本社代表

北海道命名150年と サッポロビール

蝦夷地が北海道と改名されてから本年8月15日に150年目を迎えました。この節目の年に、北海道を上げて歴史や先人の偉業を振り返り、道民一体となって将来を展望しながら様々な未来事業が展開されています。

まず、弊社トレードマークである☆のマークについてご紹介します。

函館の蛸子末次郎が図柄を考案し、開拓使船艦「樺戸丸」に掲げたのが始まりです。蛸子は、五稜郭の設計で知られる蘭学者、武田斐三郎に航海術を学んだ開拓使海運事業の中心人物です。冷製「札幌ビール」のラベルには、この開拓使のシンボル「五稜星」が採用されました。明治初期、北海道に渡った人々は夜空に輝く北極星を自らのシンボルと仰ぎまし



開拓使のシンボル「五稜星」

た。開拓使札幌本庁舎にも白地に赤の五稜星の旗が掲げられ、それが開拓使最初のビールのラベルを飾り、今日まで受け継がれています。

北海道開拓の目的は、対露防衛でした。当時ロシアは、太平洋側に不凍港を持っていませんでした。ウラジオストク港が整備されたのは後の1888年です。特に樺太地域は、江戸時代からロシアによる度重なる攻撃を受けていました。そして、母港をはるかに離れた地での物資補給のために、日本との通商を強く求めてきました。新政府は、北海道開拓こそロシアへの最大の防御になり、また殖産興業による国富増進も期待できると考えました。

1868年に明治維新が起こり、大政奉還となります。旧幕府軍の榎本武揚は最後の戦い・戊辰戦争を起しますが、1869年に函館・五稜郭に追い詰められ、遂に白旗を上げました。この時、榎本武揚による徹底抗戦の構えを崩したのが、当時参謀・黒田清隆の下で軍監として活躍していた村橋久成です。この村橋こそ、サッポロビールの生みの親です。

村橋は、1871年開拓使に10等出仕として採用され、七重村官園（現・七飯町）や、屯田兵のさきがけとなった琴似兵村（現・札幌市）の測量や境界、道路、家屋などの建設に当たりました。北海道開拓の功績をたたえ、知事公館の庭園に胸像が設置されています。

1869年、探検家・松浦武四郎の案により北海道と命名された当時、北海道の人口は約

58,000人、札幌に至っては7人とあります。未開の地を先人たちは凄絶な努力で開拓しました。1871年、開拓使長官の黒田清隆は10年間で1,000万両（現在価値2～3千億円）をかけて北海道を開拓するという建議を行い、アメリカの農務局長ホレス・ケプロンらを招聘し、西洋式農業の移入も図りました。2000年間に亘って培った日本の農業技術を、北海道ではわずか100年余りで確立したとも言えます。

そして、潤沢な資金を用い32業種40箇所の官園や官営工場などの建設などを積極的に推進します。その一つが、弊社前身の「開拓使麦酒醸造所」建設です。他にも葡萄酒醸造所、製糸所、缶詰、みそ、しょうゆなども創業されました。現在存続しているのはサッポロビールだけとなっています。

北海道命名7年後の1876年、北海道開拓という国策の中、若き先駆者たちが情熱を傾けたビール造りこそが日本人による初めてのビール誕生に結実するのです。

このように北海道の歴史と共に歩んできた弊社では、活動スローガンとして「ふるさとのために何ができるだろう」を掲げています。北海道には食や観光など様々な魅力が沢山詰まっていますが、広く知られていない財産も多いと感じています。私たちはその魅力をもっと発信し、元気な北海道を未来に引き継いでいくことが重要な使命だと考えています。

以上



1876年「開拓使麦酒醸造所」の竣工



現在の「北海道工場」